

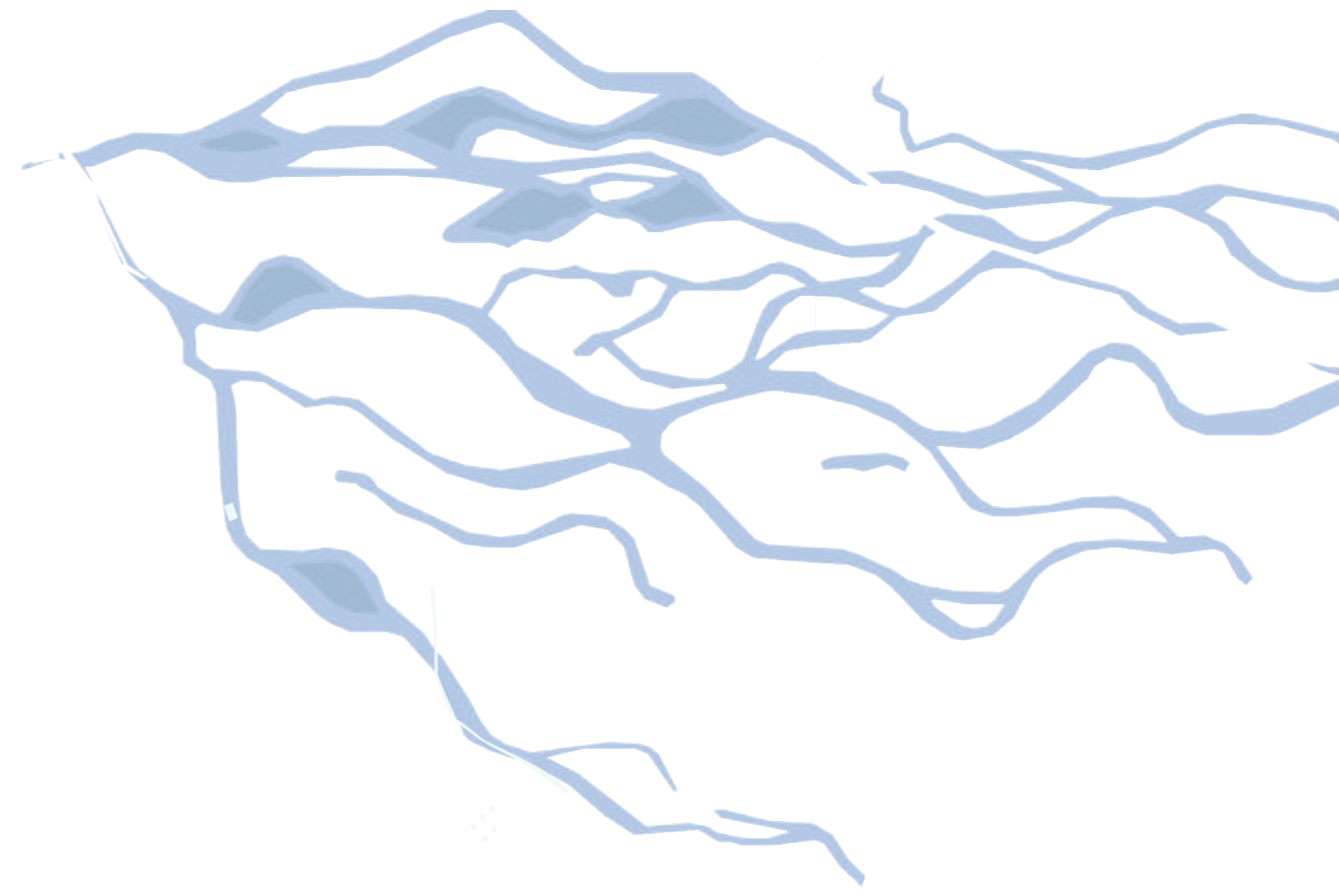
郊外型 旧河道の利用

郊外型の計画地はかつて幾度となく洪水が起きていた場所である。そのため過去には河道であった記録も残っている。そんな旧河道を街の緑化をする鍵になると考えた。



旧河道の特徴：周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後砂や泥などで埋められてできる。

自然災害のリスク：河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はげが悪い。地盤が軟弱で、地震の際は揺れが大きくなりやすい。液状化のリスクが大きい。



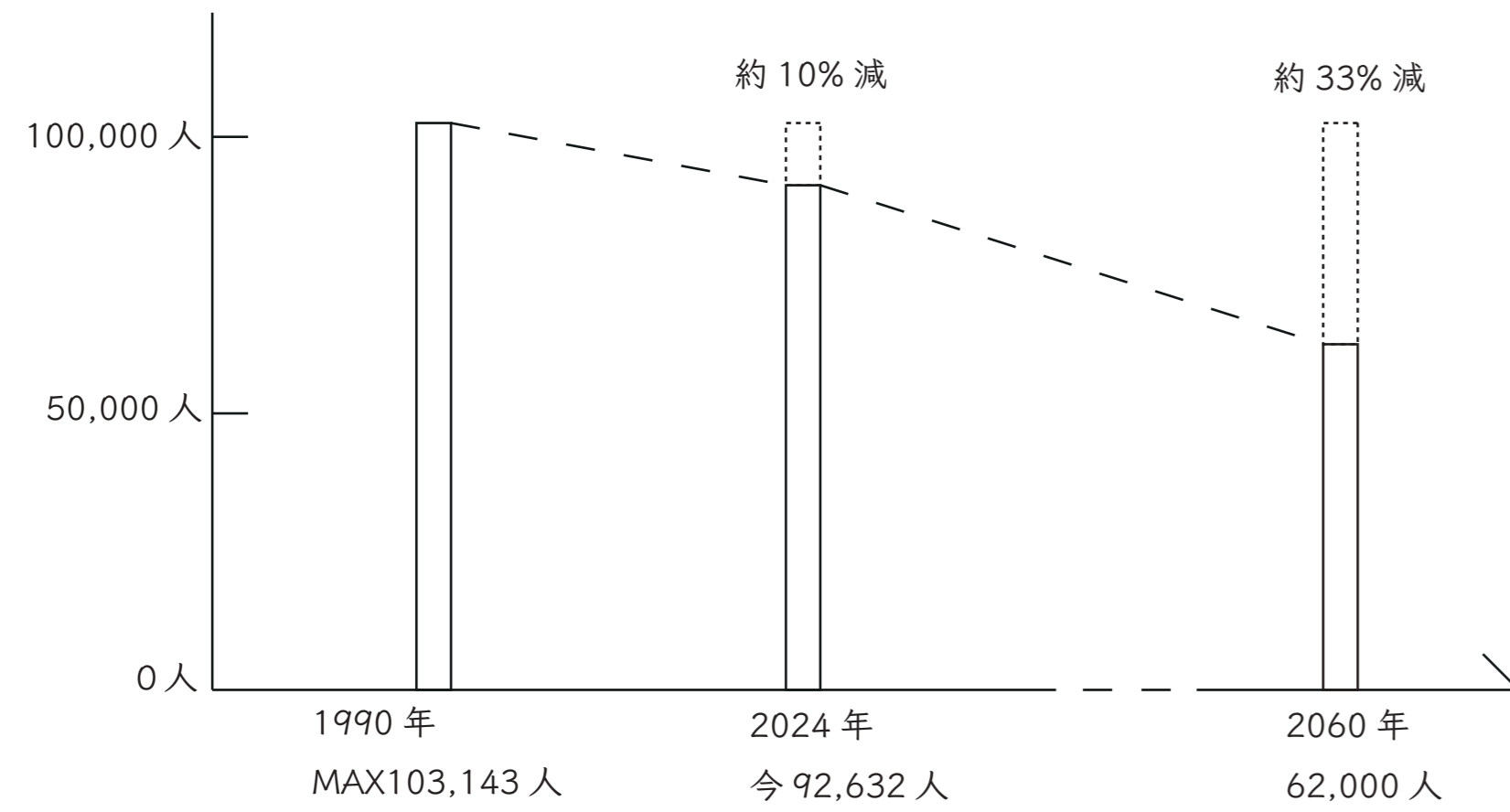
旧河道であった部分を緑道として変化させる。



緑道の効果として従来の騒音・振動緩和や気象の緩和に加え多少の地盤強化をすることができ。また、川辺から緑道と繋いでくことで生き物のコリドーとしても機能することが期待できる。

人口変動と計画

島田市人口
ここまで多くの緑化をして宅地はなくなるのか。
2024年12月1日 推定92,632人とされているが2060年の人口は62,000人程度と予想されている。高齢化率は41.8%である。



2060年には今の人口の33%減少しているため今まで住宅地として使われてきた場が緑化空間に置き換わっても問題はないことがわかる。

都市型の導線について

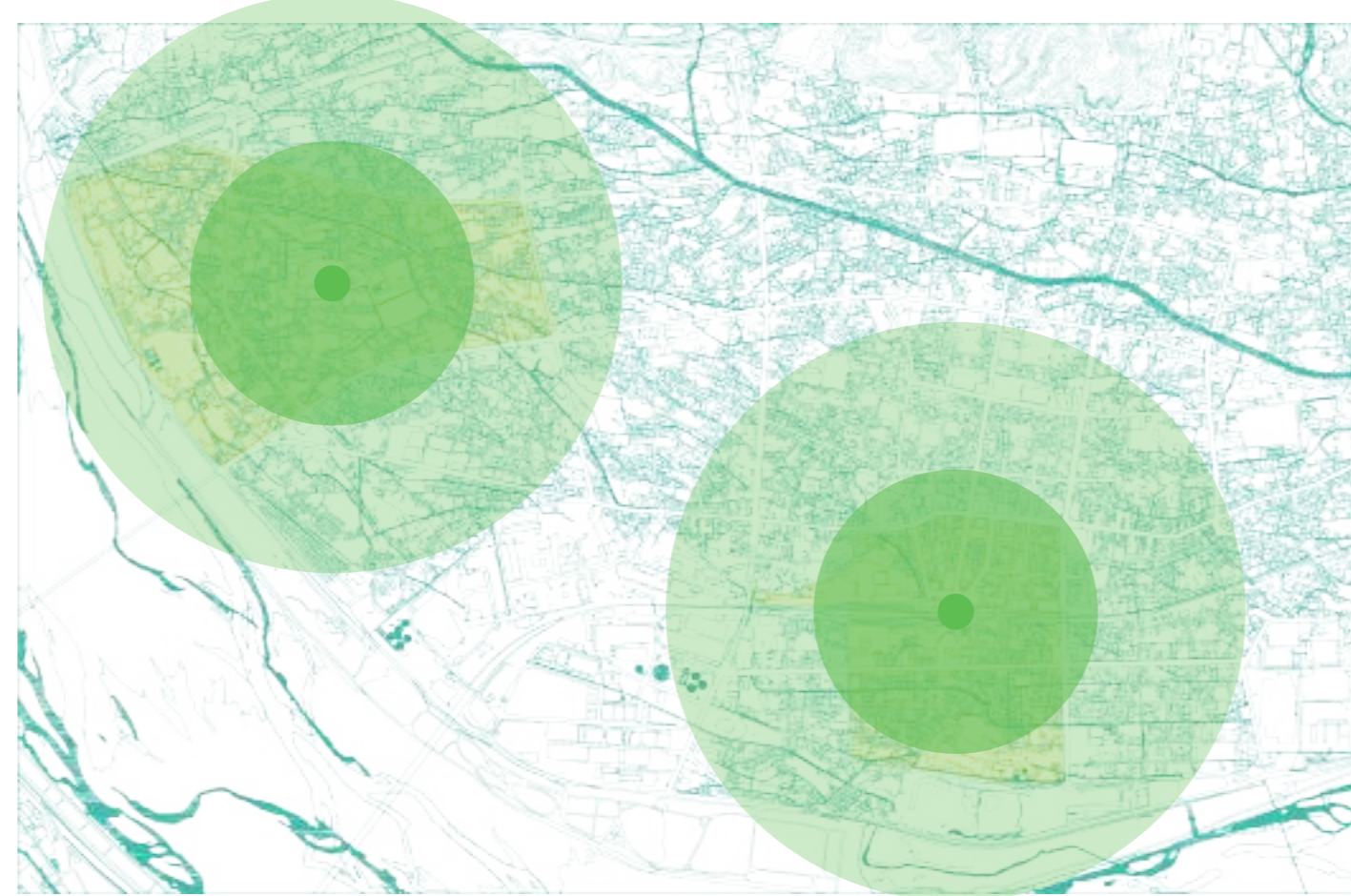


駅前の周辺道路を円状にすることで線路で分断された南北の繋がりをうむためにこの形状にした。



大きな樺の木を一本ずつ配置することでアイストップの効果をうみ相互の視線誘導にも役立つ。そうすることで駅から公園への自然な誘導へとつながる

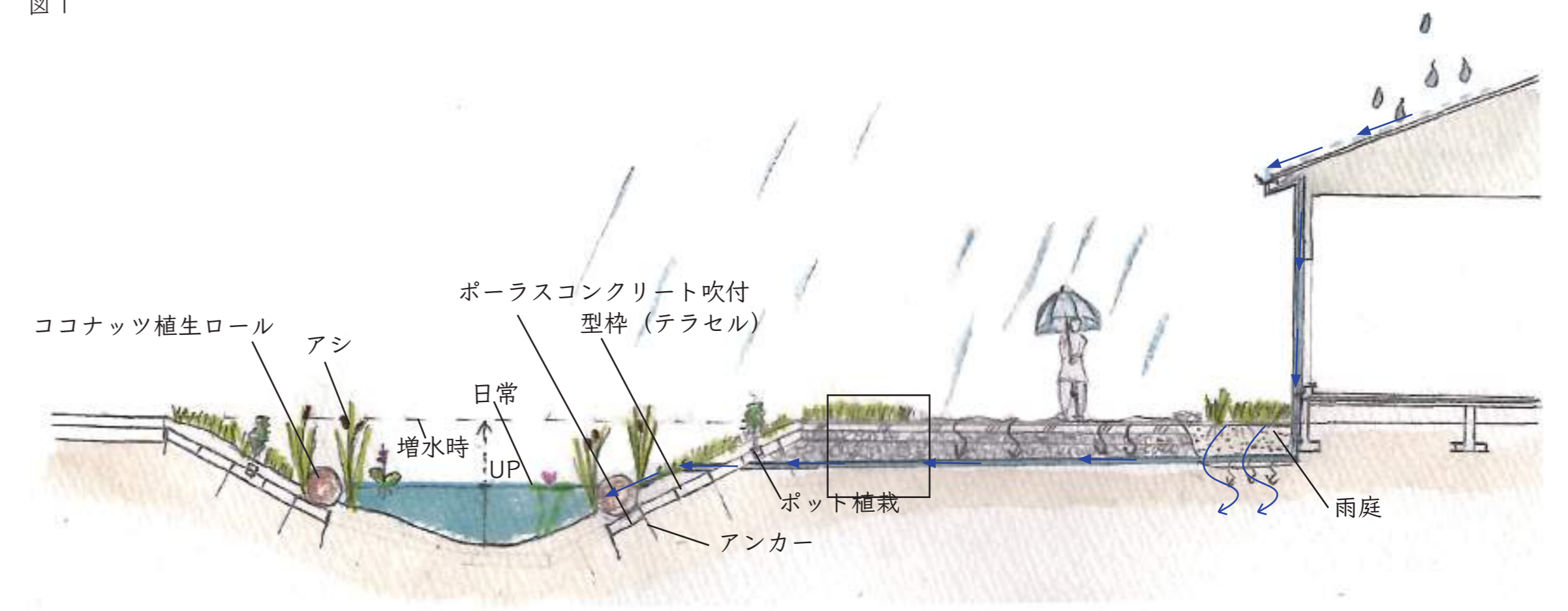
XX年後



さらに先の時代には二つの計画地を中心に緑化される街が増えていくこと想定する。

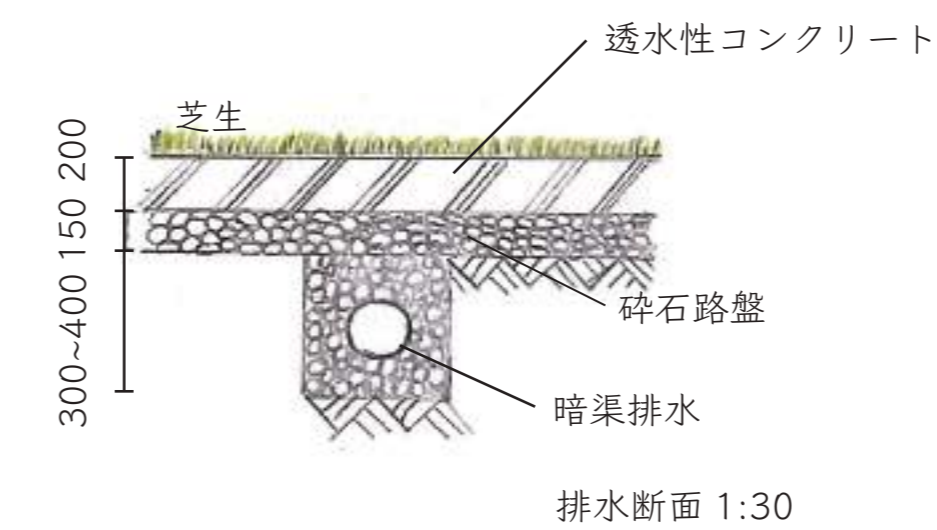
屋根・生活排水 歩行空間表面排水

図1



降雨時の排水や生活排水は基本的に水路へ放流される。その中の一部は直接放流をせず、一時的な貯水をへて地下へ浸透させる役割を持つ雨庭を活用し水路への負担を軽減する。また、生活排水を直接流し入れるだけでは水質が汚染されてしまうため、生活排水の汚れを養分として取り込むアシやヨシを水辺に植え綺麗な水を維持し、従来の水路ではなくグリーンインフラとしての機能も合わせ持つ小川へと変化させる。目でみて楽しめる水路として溶け込む。

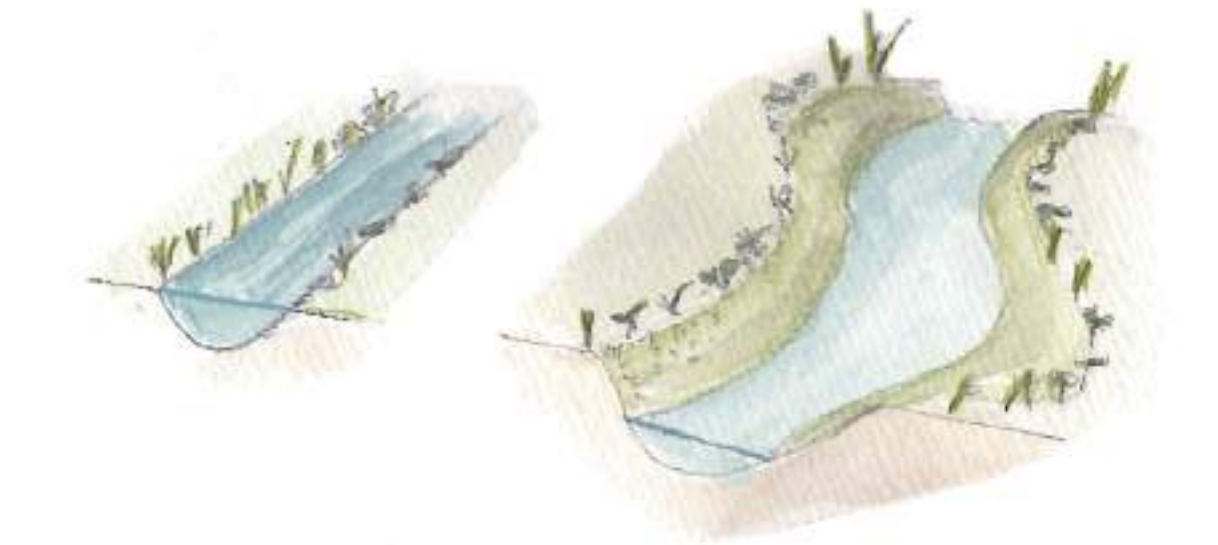
芝生部分の排水



排水断面 1:30

こちらは図1に記載されている四角部分の断面図である。今回の計画では今までコンクリートであった部分が緑に置き換わるため水がそのまま浸透してしまうため従来の排水システムだけでなく地下に設ける暗渠排水により水が小川に流れるための手助けの役割を果たす。

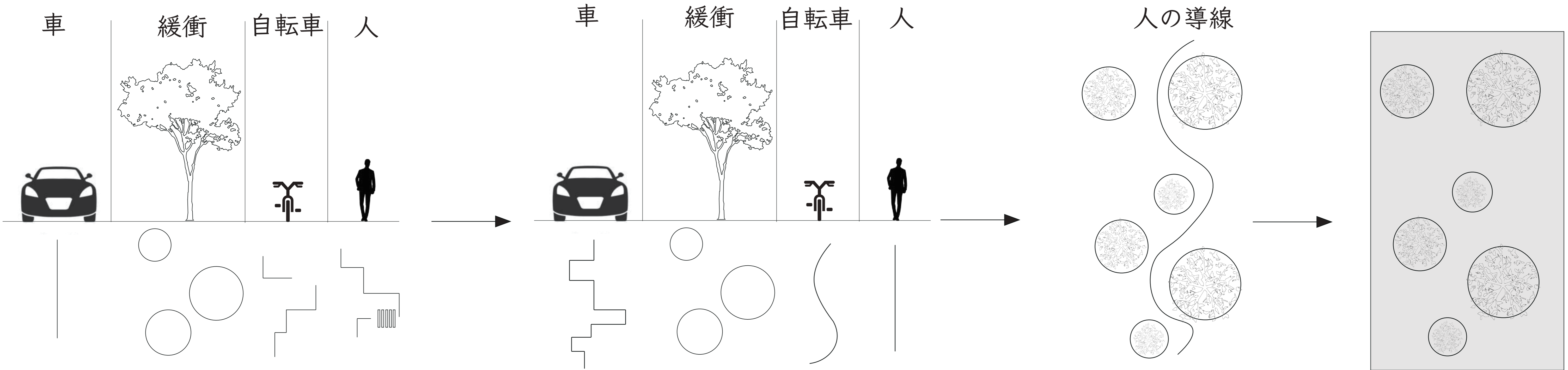
小川の造形



計画する小川は蛇行をしている。これまでは左のように水路は直進したものがおおいが、蛇行することで小川全体にポケット空間を創るようにした。そうすることで普段は水辺に近づける空間や植物の生息空間としての役割を果たし、大雨時には増水を受け入れるゆとりスペースとして活躍する。

道のデザイン

イメージ



現在の道は車が目的に対しまっすぐ進み人や自転車がそれに合わせてジグザグ進むような形態が一般的である。それぞれ分割された移動空間の中で独自の動き方をしている。

従来の交通導線から変えてみたらどうなるだろうか車がものを避けるように移動し自転車が少し蛇行しながらも目的地に確実に進んでいる。そして人は目的地に一直線に進む。しかしこれでは歩行者は歩いていて楽しくない。

一直線ではなく蛇行している方が歩行としては楽しい空間。

それだけではなく本来人の導線は線ではなく面ではないのだろうか。道とは設計者が歩かせたいものであって、その上を歩くかどうかはその人の選択によるものではないだろうか。このことを踏まえ移動空間をかんがえる。

各道路のパターン平面



マスタープラン 1 詳細平面図 1:200 バス停前

道路概要

公共交通専用道路

- 時速20km/以下
- 車が走る 幅員9m (緑地帯も含む)
- 可変式一方通行 (この区間は常に一台しか車が通らない)
- 車線数1
- 自転車幅員 片側2m
- 歩道幅員 自由

特徴

公共交通のみが通行できる道路。約800mの範囲を一台ずつ通行する。可変式一方通行となっていて同じ道を往復する区間となる。歩行者が自由に道を往来するため走行速度はゆっくりにする必要がある。

街路樹



カツラ



クヌギ



ケヤキ



ジンチョウゲ



アジサイ

バス停前の空間にはシンボルツリーとしてカツラの木を計画する。そのほかにもジンチョウゲやアジサイのような植物を計画し、バスを待ちながら植物楽しむことができる。ベンチ付近にはトウカエデを植え趣のある空間として利用でき、コミュニティ空間としても活躍する。



a-a' 断面図 1:200